牛の首

織田慶次

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

牛の首

【Nコード】

N6181L

【作者名】

織田慶次

【あらすじ】

農業をする人がいた。

その日子牛が産まれた、しかしその子牛は、。。。

(前書き)

小松左京が書いたと言われる。

とても怖い話です。しかしその内容がわかっていないのでちょっと書いてみた。

今は江戸時代、そこに小さな村がある。その村には農業をやっている男がいた。この男は心やさしく村のみんなも彼のことを信頼していた。

ある日の夜、彼は夢を見た、悪夢を見てしまった。

彼は自分の農場にいた。いつもと変わらない、夢とは思えないほどリアルだ。ふと、後ろを向くと自分の育てた牛がいた、いやこれは牛じゃない。なぜなら人の頭をしているからだ。

「ひ、じゃ、だ、首、」なにか言っているしかしところどころ聞こえない。

よく見ると牛小屋には人の頭をした牛がいっぱいいる。その全てがこつちを向いている。怖い逃げたいしかしなぜか無理だ。

牛たちはすぐ近くに来た。

「う、び」

悪夢から目を覚ました。彼は汗びっしょりだ。

牛小屋に行くのが怖いしかし牛の世話をしなければ

牛小屋についた。そういえば妊娠をしそうな牛がいます、思いだした。

その牛はもう子牛を出していた。しかしその子牛は頭が人だった。

彼は驚き、子牛を殺した。その子牛は自分の農場の土の下に埋めた。もう牛の世話をしたくないと思い、隣の人に頼み帰って横になった。寝る気はないのに寝てしまった。

また、夢を見た、悪夢を、。

暗い、だけど暑い。いきなり明るくなったと思ったらワラの上に落ちていた。上を見ると大きな牛がいるしかしなぜか怖くない。誰が来た！??俺だ。俺は俺を見てびっくりしている。スコップで殴られた。即死はしなかった。このままでは死んでしまった。俺が俺を連れていく、穴を掘っている。そこに乱暴に埋められた。暗い、冷

たい。

(後書き)

分かりづらと思います。

なんとなく分かるかもしれないけど解説しときます。

「ひ、、じゃ、、、だ、、首、、」と牛が言っている言葉は人の首
じゃいやだ牛の首がほしいと言ったんです。

最後の夢は自分が殺した、子牛になってしまったということです。
分かりづらくですいません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6181/>

牛の首

2010年12月14日20時21分発行